

6年生保護者の皆様

令和3年11月1日

稲美町立天満東小学校
校長 宇城 万実

令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

平素は、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

さて、令和3年5月27日に「全国学力・学習状況調査」が、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されましたので、その結果をお知らせします。

なお、序列化や過度な競争につながるような数値表現でのお知らせではないことをご理解くださるようお願いします。

本校児童の学力の定着状況は、県・全国平均と同程度で、大きな差異はありません。

各教科の観点別の成果と課題については、以下のとおりです。この結果を参考にして、各教科の授業改善に取り組みます。

< 国 語 >

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

語彙指導の成果として思考に関わる語句を理解し、適切に使うこと、文の中の主語と述語の関係性を理解することができています。自分の思ったことや考えたことを効果的に伝えるために、主語・述語、修飾語・被修飾語の関係に注意して表現する重要性に気づくことができるよう指導していきます。

【話すこと・聞くこと】

資料を使いながら話す活動を取り入れることで、相手を意識しながら、順序を立てて分かりやすく自分が伝えたいことについて話すことができています。また、話し合い活動の中では、話す内容や項目について考え、計画的に話し合いを進めることができています。今後は、自分の意見を言うだけでなく、他者の意見を踏まえて考えをまとめる力をつけていけるよう指導していきます。

【書くこと】

筆者の主張に対し、自分の意見を短くまとめて書く指導を行ったことにより、文章全体の構成や展開を考えることができています。目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書くことがやや苦手な児童も見受けられます。事実・感想・意見を区別して、文章を書く力をつけていけるよう指導していきます。

【読むこと】

読み物教材の指導の成果として、文章全体の構成を的確に捉え、内容の中心となる事柄を把握することはできています。目的に応じて必要な情報を文章や図表から探し出すことや、それらの複数の情報を結びつけて要約することに課題のある児童も見受けられます。文中の図表が文章のどの部分と関係するのかを明確にし、文章と図表の関係を正しく捉えて読むことができるよう指導していきます。

< 算 数 >

【数と計算】

日々の計算ドリルや計算スキルなどで反復練習を行った結果、当該学年の計算を定着することができています。問題文に出てくる数の意味や対応関係を常に意識して考えるようにし、問題場面を正しくイメージできるよう指導を工夫していきます。

【図形】

求積公式は理解できていますが、三角形の面積の求め方や、複数の図形を組み合わせた図形の面積の求め方について課題がある児童も見受けられます。求積公式だけでなく、底辺や高さなどしっかりと概念を理解できるよう指導を工夫していきます。

【測定】

時間や距離を求める問題では、条件を考慮しながら正答を導き出す事はできています。ある時刻の〇分後を求める問題では日常生活で時刻を求める練習をする等、実感的に理解できるよう指導を工夫していきます。

【変化と関係】

速さの学習では、公式から「道のり」「速さ」「時間」を求めることはできています。速さが比例することを利用して問題を解くことが苦手な児童も見受けられるため、比例の良さを十分に理解し、速さにも比例関係が存在することを意識づけるよう指導の工夫に努めます。

【データの活用】

棒グラフから数量を読み取ることはできています。棒グラフで示された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述することに課題がありました。データを扱う単元では、単に数字に着目するだけでなく、全体や他の項目と比較するなど、データの特徴や傾向を読み取ることができるよう指導の工夫に努めます。

< 生活面 > ※ 顕著な項目を紹介します。

基本的な生活習慣等について「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」「毎日同じくらいの時刻に起きている」という質問に肯定的な回答をしている児童の割合が高く、家庭と連携した食育の取組を通して、「早寝早起き朝ごはん」が定着しつつあることがうかがえます。

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感について、「将来の夢や目標をもっている」「人が困っているときは進んで助ける」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「学校に行くのは楽しい」「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる」といった質問に肯定的な回答をしている児童の割合が高く、自己有用感の高まりが、いじめを許さないという児童の規範意識や人権意識の高揚につながっていることがうかがえます。今後も、児童一人一人への共感的な理解を深め、人間的なふれあいを通して、個々の児童のよさを発揮できるよう努めていきます。

ICT機器を活用した学習状況では、「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強に役立つ」という問いに肯定的な回答をした児童が大変多く、タブレット端末を活用した授業の積み重ねが結果に表れたと考えられます。今後は教育活動全体で情報教育に取り組みとともに、GIGAスクール構想等により整備されたICT環境を生かし、タブレット端末を活用して自分の興味関心に応じた課題や、考えを交流し深めていく授業を構想していきます。